

レスポンシブル・ケア活動の継続的強化

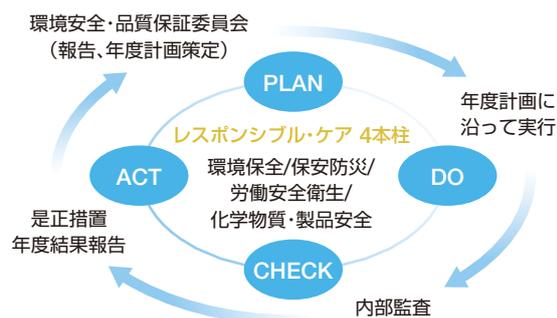
当社は、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至るすべての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行うレスポンシブル・ケア(RC)活動に、取り組んでいます。

レスポンシブル・ケアマネジメント

体制

当社は、RC中期計画(2016-2021)を策定し、これを達成するため、全社にISO14001^{*}を基本としたRCマネジメントシステムを構築し、PDCA (Plan, Do, Check, Act) による目標管理、継続的改善を行っています。

※環境マネジメントシステムの国際規格、全工場でISO14001の第三者認証を取得



RC監査

RC監査とは、RC監査指針に基づき環境安全・品質保証部が、工場、研究所、関連会社でのRC活動を確認する活動です。各箇所が行う内部監査やパトロールに加え、各箇所のRC活動が適切に実施され、PDCAサイクルが着実に回っているか、また環境・安全・健康に関わるコンプライアンスに関してチェックをしています。環境安全・品質保証部は、このRC監査において、環境・安全・健康に係る顕在化した問題、または潜在的なリスクがあれば、明確に示して改善を促しています。

2020年度は工場、研究所、関連会社に対して延べ22回のRC監査を実施しました。

「レスポンシブル・ケアマネジメント」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/management.html

気候変動の緩和・環境保全

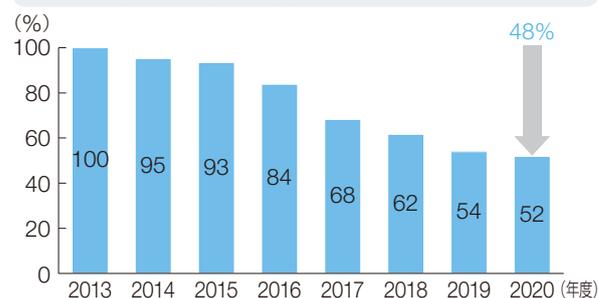
温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み

当社グループは、温室効果ガスの排出削減をはじめとする環境保全に積極的に努めるとともに、環境配慮型製品・サービスの提供を通じて、脱炭素社会の実現に貢献しています。2030年度までに、温室効果ガス排出量を2018年度比30%削減するという長期目標のもと、省エネ、燃料転換や一酸化二窒素の削減などの、気候変動の緩和に向けた取り組みを進めています。排出量と売上高の比として算出した原単位(排出量/売上高)は2013年度の52%になりました。

温室効果ガス排出量



温室効果ガス原単位指数(2013年度を100とする)



「気候変動の緩和」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/reduction.html
 「産業廃棄物・汚染物質の排出削減」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/management.html
 「水資源の保全」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/effective.html
 「生物多様性への取り組み」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/conservation.html

保安防災

当社は安全確保と安定操業、保安力向上を目標に、製造事前評価によるリスクの洗い出し、プロセスKY（危険予知）、設備KYを実施しています。2020年度は富山工場で火災、名古屋工場で漏洩事故が発生しました。富山工場の倉庫にて廃棄予定の規格外塩素系洗浄剤が原因の火災が発生し、一時的に塩素系ガスが発生しました。工場敷地外周辺では塩素系ガスは検知されませんでした。近隣の小中学校の登校が遅れ、ご迷惑をおかけしました。また、名古屋工場では配管の摩耗や腐食が原因と考えられる発煙硫酸の漏洩が生じ、三酸化硫黄ガスが発生しました。ガス検知器の結果から工場敷地外周辺への影響はなく大事には至りませんでした。これら火災や漏洩を二度と起こさないように、再発防止策を徹底し、さらに全箇所へ対策を展開しています。また、工場、研究所ならびに関係会社では、地震防災訓練などの各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に迅速かつ確実な対応を取れるように備えています。



防災訓練（富山工場）

労働安全衛生の推進

当社は、RCマネジメントシステムを通じて、労働災害の防止、労働者の健康増進、快適な職場環境の形成に努め、各事業所の安全衛生レベルの向上を図っています。また、安全確保と安定操業、保安力向上を目指し、各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に確実な対応が取れるように備えています。

2020年度は当社において、1件の休業災害と7件の不休災害が発生しました。前年度に比べて、休業災害は減少しました。今後もリスクアセスメント、作業

休業災害度数率*



* 100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数

前KYやKYトレーニング、HHK（ヒヤリ・ハット・キガカリ）活動、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、適切な保護具の着用を推進し、安全常会や労働安全新聞などにより安全に対する意識を向上することで、労働災害ゼロを目指します。

「保安防災・労働安全衛生の推進」

https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/safety.html

化学物質の管理・製品安全

製品ライフサイクルにおけるリスク評価

化学製品の研究開発、製造、販売に至る各段階で、リスク評価（事前評価）を実施しています。人、環境へのリスク評価は、生物科学研究所または外注で取得したデータ、原料のSDS（安全データシート）、文献や外部データベースの安全性試験データのほか、物理化学的性質、作業環境条件などが基礎となります。これらのリスク評価結果は、社内の全関係者に周知されます。また、技術移転書などによってバリューチェーン内に伝達されます。

ほかにも、日本化学工業協会（JCIA）が推進する「化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組み」である Long-Range Research Initiative にも参画し、人の健康や環境へのリスク評価に関する研究の進展に向けた活動をしています。

「化学物質の管理」

https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/chemical.html